

校長室の窓

巡りくる春

— リセット と スタート —

世の中に たえて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし 在原業平

桜前線のたよりが聞こえるころとなりました。この地方では3月29日の開花予報です。千年以上もの古(いにしえ)から、この国の人々のサクラに寄せる思いは変わりません。とりわけ学校では、サクラは出会いと別れの感傷を呼び覚ます、特別な花だといえます。

日本の学校が4月始まりなのは明治時代からで、お手本としたイギリスの会計年度になったといわれています。ちょうど花の咲くころに別れと出会いがある、毎年学校で繰り返される光景です。住み慣れた教室、ともに過ごした友



【3月 卒業生送りだし】

達と別れ、新しい友達、新しい教室、新しい担任との出会う。それは、これまでの自分を一度リセットして、4月からは新しい自分になるチャンスでもあります。良いことも悪いことも、ひとまず白紙にもどしてやり直す。そういう機会が毎年必ずやってくるおかげで、子どもたちは成長の階段を1歩ずつ上っていくことができます。「1年生になったら友達をたくさん作りたいな。」「2年生になったら給食を残さず食べよう。」「6年生になったら部活動で選手になるぞ。」「中学へ行ったら勉強をがんばらなければ!」3月も押し迫った今、正則の子たちは未来の新しい自分を、きっと思い描いていることでしょう。「こうなったらいいな」という希望、「ならなかったらどうしよう」という不安、そんな思いをいっぱい抱えて、正則の子の4月が間もなくスタートします。

私たち職員も同じです。正則小を去る人、残る人、そして新たに正則の子に出会う人、それぞれにリセットとスタートがあります。「4月になったら、次はどこでどんな子と出会うのだろう」と、まだ見ぬ子たちへの期待でいっぱいです。1年間、6年間、9年間という定められた期間の「指導の連続性」は大切にしながらも、過ぎた1年間の数々の失敗の反省を肝に銘じながら、やっぱり一度リセットして、「これから出会う子たちのためにがんばろう」と新たな決意をする。そんな正則の春が、また巡ってきます。

この1年、正則の子たちは元気いっぱい、充実した学校生活を送ることができました。これもご家庭の皆様、地域の皆様のご協力があってこそだと思います。1年間ありがとうございました。健康で安全な春休みをお過ごしください。



【4月 1年生を迎える会】